

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表: 令和4年 3月 4日

事業所名 キンダーハイム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	使用できる部屋の時間帯や部屋を割り振り空いている時間を見つけ、できるだけ重ならないようにしている。	さくらやホールなど人数多数になる場面もあるが、クラス間で混雑しすぎないように調整がされている。雨の日など使用スペースを時間帯によってわけ工夫が必要。
	2	職員の配置数は適切である	4	4	配置基準上は適切であるが、子どもの姿や状況や様子によって、人手が不足するため、加配等で適切にしている。	配置上は適切であるが、職員の休みなどの状況により、個別配慮や難治性てんかんなどのケアなど対応しきれない場面もあるため、適切でないと感じることがあった。職員体制の検討が必要。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	11	1	利用者の状況をみながら、視覚的に必要かを相談し工夫し、場所にあったものの提供を行っている。	引き続き、本人にわかりやすい環境の整備に努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	3	清潔に過ごせるように気を付けている、毎日降園後の消毒を行っている。	換気をしていることもあり、夏は暑く、冬は寒い状況だった。ホットカーペットの整備により寒さは改善されたところもある。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1	保育後の振り返りでその日になるべく振り返りをしている。全体に関わることがあれば朝礼、終礼などで共有している。クラスで目標や振り返りを再度確認している。	職員全員に伝わっていないことがわかった。業務改善に関する内容が伝わるように周知する。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	保護者の評価も全体に周知し、励みや課題として受け止めています。	去年度から何が改善されたのかわかっていない職員もいるので周知していく必要がある。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	紙面掲示とホームページへの掲載で公開している。	公開方法やわかりやすい集計方法を検討。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	0	第三者による外部評価は実施していない。	第三者による外部評価については、今後検討していく課題。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	1	計画的に研修を実施するようにしている。研修の内容などは、今必要な課題を挙げて取り組めるようにしている。	実践報告は取り組んだ結果を発表するだけでなくとどまらず、取り組みの最中の経過報告や試行錯誤などを皆で話し合い、クラスの垣根を超えて子ども達の事を話し合えるようにしていくことが課題。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11	0	クラス職員で会議を行い、家庭での生活上の難しさなどをしっかり聴き取り、施設での取り組みをどう活かしていくのが良いのか考えている。	時間が作りにくいなか、相談話し合い確認をしているが、個別支援計画の目標の立て方を統一していくという課題もある。

適切な支援の提供

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	0	新版K式発達検査や言語検査などを実施している。	検査結果の振り返りの時間の確保については課題となっている。
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10	0	児童発達支援計画は領域別に項目がわけている。 一人ひとりにあった支援や家庭の様子を会議等で情報を共有している。 クラス職員で話し合い計画を作成している。	発達支援の比重が大きく地域支援はまだまだ不十分な所はあるように思う。
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12	0	常にクラスで目標についての進み具合などを話し合うようにし、その時の様子やクラスの状態によって、支援できない時もあるが、可能な限り行っている リーダーの先生が中心に相談、話し合いの時間を作るようにしている	一定期間で支援計画を見直し、課題改善をおこなっているが、振り返りの時間や機会はもう少しほしいと考えている。
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	今のクラスの子どもたちにどのような支援、環境設定が必要かを話し合い行っている	職員の経験年数などによってプログラムの検討内容が変わる。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	今の状況にあわせて固定的にするところと面白さ子どもたちの興味や関心、できることを考慮している。	子ども達の発達・特徴は毎年全く違うので、そこを重点的に考えると自然に毎回違ったプログラムになっていく。 職員間でのコミュニケーション場面を増やすことが課題。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	12	0	遊び方の違いや身体の動かしの違い等を見極めつつ子どもに合わせた支援計画を作成している。	集団活動の中でも個別活動を実施しているがクラスの枠を超えた活動はしにくい。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	3	毎朝1日の流れを確認し、子どもが登園してから子どもの様子を共有しながら、様子に合わせて支援内容を変更したりしている。 朝礼としては必ずしている。支援しながら打ち合わせをすることもある。	職員間で話し合うための時間をには職員同士の信頼関係の構築が重要だと感じる。役割分担を伝える事だけでなく状況に合わせた打ち合わせが必要。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	3	クラス会議時間に話し合っている。 終礼は必ず実施している。 成長が見られた面などを共有する為短時間でもするようにしている。	その日のうちにできないないこともあり、他にすべき仕事が増えると難しさはある。業務内容の改善とも関連する為、考えていく必要がある。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	2	子どもの様子を詳しく書くようにしている。 日誌は毎日書いているが、お便り帳にて子どもの様子を記載し、何かあった場合は記録もつけている。	記録時間の確保が課題。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	1	モニタリングは保護者の方との懇談で報告するためその前にクラス会議などを実施している。支援計画との関係で常に意識している。	引き続き、支援計画と関連させて、モニタリングを丁寧に行い、必要に応じて計画を見直すことを実施していく。
	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	短時間でも参加できるようにし、子どもの様子を伝え会議あるいは書面で報告を行うようにしている。	最もではないと思うという意見もあるが、相談支援事業所からの要請に応じて適切な者が参加できるように努める。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	対象の区の子育て支援室との連携など実施している。相談支援事業所とのやりとりも実施している。電話での情報共有や会議に出席している。	引き続き、必要に応じて頻度を上げて連絡をとり、家庭に対して円滑な支援を実施できるように努める。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	対象児がいない。(難治性てんかんなどの対応は実施している。)	対象児童がいる場合は連携して支援を実施する。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0	対象児がいない。(難治性てんかんなどの対応は実施している。)	対象児童がいる場合は連携して支援を実施する。
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	引き継ぎ資料を作成している。訪問して様子を見ることもしている。情報共有は引継ぎ資料の送付を通じて行っている。	移行先の支援内容までは積極的に把握はしきれていない。情報交換の頻度等を増やす方法を考える。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	引継ぎ資料を作成している。引継ぎ資料や就学前の見学受入などを行っている。	就学先の支援内容までは把握しきれていないのが現状である。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	児童発達支援センターなどの協議会に参加している。他の自治体の児童発達支援センターと新型コロナウイルス感染症予防対応や、制度についての情報共有を実施している。	他機関との会議がキンダーハイムの支援時間と重なるため参加できる人は限られている。
	28	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	10	新型コロナウイルス感染症対策のため今年度は実施されなかった。	新型コロナウイルス感染症予防の観点から行事が中止となってしまった。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	2	できるだけ誰かが参加できるようにしている。	子ども部会の活動内容なども周知できるようにしていく必要がある。子ども部会の活動時間が支援時間と重なるため参加できる人は限られる。
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	0	お便り帳やパスなどで会話をするようにしている 職員の意識として保護者の思いをしっかりと聞くというスタイルは確立されていると思う。	十分な話し合いの時間の確保が難しい。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	0	通園1年目の方を対象としたお話し会1、2年目以降を対象としたお話し会2を年間各5～6回実施している。 お話し会1・お話し会2の中で、見通しを持つことや色々なかわり方を知ることができている。	保護者向け学習会は実施しているが、参加されない方もいるため、参加率をどのようにしてあげるかが課題。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	見学时、入園説明会時、契約時と回数を増やして説明している。	入園見学时、入園説明会、契約時と何度か説明をしているが、どういった内容を話しているのかが職員に伝わっていないことが課題。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	11	0	懇談は十分な距離をとって実施できた。要望によっては、ZOOMや電話も使用して実施していくようにした。できるだけ細かく丁寧に説明する時間は取るように心がけている。	引き続き、丁寧に支援内容を説明して伝えていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	0	定期的な懇談だけではなく、臨時でも懇談を実施している。状況に応じて、電話や対面や書面でのやりとりをしている。お便り帳等でのやり取りの中での困り事などあれば電話等でしっかり聞き、一緒に工夫すべき、家でできる支援を考え伝えている。保護者やその回りの状況をふまえた場を持っている。	引き続き、適切に相談に応じ必要な助言と支援を実施する。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	1	保護者会の活動は今年度はなかなか難しかったが、サポートはしている。今年度はコロナのため、集まり交流することが難しかったが、保護者会学習会はzoomを使用し2回研修も行われていた。	今年はコロナの影響で活動が積極的にできていない。保護者会の活動は施設としてできる限りフォローや調整の協力を引き続きしていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11	0	相談があった場合はその都度、懇談を実施している。こういう意見があったという事に対し、皆で話し合い、より良い取り組みの為にどうすれば良いか考えている。お便り帳、電話、面談など保護者とのやりとりで対応している。	引き続き、保護者、子どもに関わらず丁寧に相談を受付けていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	月毎にキンダーだより、クラスだより、献立、ほけんだよりを配布している。年に2回、冊子「どろんこ」を発行している。クラスだよりにおいては、各クラスそれぞれの特色や遊びや様子などを記載するようにしている。	引き続き、伝えることに重点をおいた情報伝達に努める。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	11	0	個人情報に記載されている書類など処分時シュレッダーをする。職員、実習生に対する守秘義務を説明している。	個人情報については引き続き、十分な注意をして取り扱うよう周知していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	1	子どもや保護者によって、話す速さや声のトーンなどを工夫して関わるようにしている。細かく情報説明するため、その人にとって分かり易い方法(見る・書く等)を常に考え、職員で共有するようにしている。視覚提示やわかりやすい簡単な言葉を使用し、簡潔に話している。聞き取りが苦手な方には、文字で伝えるようにしている。	日本語以外のコミュニケーションについての伝達手段などは工夫が必要。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、行事については地域に開放しないこととなった。地域と一緒に祭りを開催予定だったが、コロナの関係で中止となった。	状況がよくなれば取り組みを実施する。地域の関係団体、町会とは連絡をとっている。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	0	職員研修でも実際の作業内容の確認をおこなった。月に一回は避難訓練を行なっている。	訓練はあくまで訓練なので、不安はある。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0	月に一度は避難訓練を実施している。	職員が配置基準数いる想定で行っているが、職員数が不足している場合、どのように避難するかが課題。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	12	0	入園前見学時に確認し、契約時に再確認する。入園決定後は看護師を交えての医療懇談を実施している。担任・看護師・事務所で把握した上で全職員で状況を把握している。	医療的に配慮の必要ある子どもには、看護師を交えて懇談する機会を十分に設ける。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	0	医師からの指示書にもとづき、除去食を提供し、アレルギーの誤食が起こらないように片付けや清掃を徹底している。除去食をクラスで毎日共有して注意している。給食提供については、栄養士を中心に厨房、クラス担任がトリプルチェックし、事故につながらないようにしている。	アレルギーのある子どもがクラスに居る場合はしっかり把握できているが、それ以外の職員はどの食材が駄目かどうかは分かっていることは引き続きの課題。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	2	朝礼、終礼で周知し共有化は行っている。会議で全体報告を行い、以後気をつけるよう心がけている	ヒヤリハット事例集の有効活用については、課題である。事例集の所在を目立つようにする。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	研修を実施している。	引き続き、研修を含めて虐待防止に取り組む。具体的な例や人それぞれの考え方の違いなどを発表し合い擦り合わせる機会を持つことが課題。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	12	0	研修を受け、保護者にもお伝えし、職員全体でも把握している。身体拘束はおこなわないようにしている。	自分ではそういうつもりでは無かったという事柄が多いと聞いているので、常に話し合いや意見交換が必要である。疑わしい場面があった場合には、「必要ない関わりではないか」「行動制限しているように見える」等、第三者として意見を言えるようにしていかなければいけない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。